

令和5年度

西和賀町健康増進計画

「まめまめ21」(第2次)

最終評価

## 西和賀町健康増進計画「まめまめ21」(第2次)の評価

以下の3分野11項目について、これまでの保健活動状況や目標の達成状況を評価し、課題を明確にして次期計画につなげます。

- |            |                              |
|------------|------------------------------|
| 1 健康づくりの推進 | ①栄養・食生活 ②身体活動・運動 ③休養・こころ     |
| 2 生活習慣病の予防 | ①がん ②生活習慣病 ③歯の健康 ④アルコール ⑤たばこ |
| 3 親子の健康づくり | ①妊娠・出産 ②子育て ③子どものこころと体       |

### ① 健康指標の到達度の判定方法

県の判定基準に準じて、基準値(平成27年度)、最新値(令和5年度)及び目標値について、以下の表にもとづき到達度を算定し、4段階(A~D)で判定しました。

到達度	到達度の数値	内 容	到達度の算定方法
A	100%以上	目標達成	1、基準値よりも最新値を上げる目標である場合 (最新値-基準値)/(目標値-基準値)×100  2、基準値よりも最新値を下げる目標である場合 (基準値-最新値)/(基準値-目標値)×100
B	50%以上100%未満	目標に対し50%以上の達成	
C	0%越え50%未満	目標に対し50%未満の達成	
D	0%以下	後退	

※ アンケート結果による最新値は、有効回答数が母数となり割合を算出しています。

### ② 各項目の判定基準

県の判定基準に準じて、以下の表の判定基準にもとづき、4段階で判定しました。

区 分	判 定 基 準
順調	目標項目の到達度が全て「A」または「B」である
概ね順調	目標項目の到達度が全て「A」または「B」が半数以上である
やや遅れ	目標項目の到達度で「A」または「B」が半数未満である
遅れ	目標項目の到達度で「D」が半数を超えているもの、「A」または「B」が全くないもの

# 1 健康づくりの推進 (1) 栄養・食生活

A: 目標達成(到達係数100以上) B: 目標に対し到達係数50以上  
C: 目標に対し到達係数50未満 D: 後退

施策の方向	1 望ましい食生活の知識の普及						
	2 脳卒中予防対策						
健康指標と目標値	健康指標	策定時(%) 平成27年度	最終目標(%)	現状(%) 令和5年度	目標達成度	第3次計画指標	
	1	朝食をほぼ毎日食べている	82.7	90.0	81.0	D	継続
	2	1日2回以上、主食・主菜・副菜がそろった食事をしている	67.9	75.0	72.7	B	継続
	3	減塩のために心がけていることがある	44.6	60.0	55.1	B	継続
	4	適正体重である	68.0	73.0	62.1	D	平成27年度の数値はアンケートによる自己申告 令和5年度の数値は国保データベース(KDB)システムから引用
指標の結果と分析	指標の結果と分析 (平成27年度と令和5年度の比較)					分析から見えてきた重点課題	
	<p>○アンケート結果から「朝食をほとんど食べない」と回答した人が8.1%いて、60歳以下の世代に多く見られる傾向がある。</p> <p>○「1日2回以上、主食・主菜・副菜がそろった食事をしている」と回答した人は増加したが、単身世帯の若い世代ではそろった食事がとれていない傾向がある。</p> <p>○薄味・減塩の重要性について、97%の人が認識しているが、実践するまでに至っていない。</p> <p>○「適正体重を維持できる食事量を心がけて実践している」と回答した人が47.4%で、日頃から健康維持・増進のために意識的に心がけていることが把握できた。</p>					<p>次世代に食育をつなぐ大切な担い手である世代に、朝食欠食者が多く見られる。また、生活習慣病予防や改善、低栄養予防につながることから、朝食欠食率の減少とバランスのよい食生活、減塩を意識した食事が必要である。</p>	
事業の振り返り	実施事業	町の取組の振り返り				第3期計画への取組方針	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診事業</li> <li>・幼児歯科健診事業</li> <li>・子育てサロン</li> <li>・親子クッキング</li> <li>・一日人間ドック</li> <li>・健診結果説明会</li> <li>・精神ケア事業</li> <li>・地区健康教育(サロン)</li> <li>・出前講座</li> <li>・食生活改善推進員養成・育成事業</li> <li>・男の料理教室</li> <li>・精神ケア事業</li> <li>・農業まつり</li> </ul>	<p>乳幼児健診の事後指導の際に子どもだけではなく、保護者の食生活の様子について聞き取りを行い、保護者の食事意識の低下が子どもの食への興味が薄れる原因となることを伝えた。また、保育所給食献立表に朝食簡単レシピを載せ、忙しい時に活用できるメニューを紹介した。</p> <p>一日人間ドックの事後指導や健診結果説明会において、バランスのよい食事、減塩の重要性について栄養指導を行い、主食・主菜・副菜がそろった食事と野菜1日5皿を目標とし野菜レシピを積極的に取り入れることについて指導を行った。</p> <p>食生活改善推進員や保健委員から協力を得て、みそ汁塩分濃度測定を実施し、味覚だけではなく、数値による薄味について栄養教室を実施した。</p>				<p>○生活習慣病予防や改善のため、バランスのよい食事をとる。</p> <p>○減塩を心掛ける。</p> <p>○野菜を1日5皿を食べるようにする。</p> <p>○地産地消に心掛け、旬の食材や食べ物の関心と知識を深めるために給食などに活用する。</p>	

# 1 健康づくりの推進 (2) 身体活動・運動

A: 目標達成(到達係数100以上) B: 目標に対し到達係数50以上  
C: 目標に対し到達係数50未満 D: 後退

施策の方向	1 気軽に運動に取り組める環境づくり					
	2 運動効果の啓発					
健康指標と目標値	健康指標	策定時(%) 平成27年度	最終目標(%)	現状(%) 令和5年度	目標達成度	第3次計画指標
	1 健康維持・増進のために身体を動かすよう意識している	67.8	80.0	81.8	A	継続
	2 運動習慣がある(1日30分以上かつ週2日以上実施)	20.0	35.0	31.8	B	継続
	・65歳未満で運動習慣がある男性	23.4	35.0	31.3	B	継続
	・65歳未満で運動習慣がある女性	18.6	35.0	26.4	C	継続
	・65歳以上で運動習慣がある男性	21.5	35.0	46.8	A	継続
	・65歳以上で運動習慣がある女性	20.0	35.0	33.9	B	継続
指標の結果と分析	指標の結果と分析 (平成27年度と令和5年度の比較)					分析から見えてきた重点課題
	<p>○「健康維持・増進のために身体を動かすよう意識している」と回答した人が81.8%で、前回より増加していた。しかし、1日30分以上かつ週2日以上の運動習慣をつけるまでには至っていない。</p> <p>○健康指標と目標値とした「運動習慣がある」については、平成27年度から微増となった。しかし、アンケート結果から「時間が取れない」と回答した人が52.3%おり、日常生活で運動する時間を作ることができていないことが把握できた。</p>					運動のために時間を作ることができていない人が多く、環境づくりが必要である。
事業の振り返り	実施事業	町の取組の振り返り				第3期計画への取組方針
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健幸大学(運動教室)</li> <li>・一日人間ドック</li> <li>・健診結果説明会</li> <li>・介護予防事業(運動)</li> <li>・西和賀ご当地体操の普及</li> </ul>	<p>健幸大学(運動教室)を開催し、ながら体操や椅子ヨガなどの日常生活において取り入れやすい身体活動を紹介した。</p> <p>一日人間ドックの事後指導や健診結果説明会等の健康教育の場を活用し、短い時間で気軽に身体を動かす体操や運動を紹介した。</p> <p>地区サロン等で体力測定を行い、体力測定の結果を個人へ返却した。(健康福祉課協力事業)</p> <p>ひかり放送(告知端末)を活用し、平日午前10時に「西和賀ご当地体操」、午後3時に「ラジオ体操」を放送し、ご当地体操の普及と手軽に運動ができるよう取り組んだ。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○ご当地体操など、短い時間で簡単に身体を動かす機会を提供する。</li> <li>○健幸大学(運動教室)を開催し、誰でも参加しやすく参加者同士の交流を図りながら運動習慣のきっかけを提供する。</li> <li>○一日人間ドックの事後指導や健診結果説明会等の健康教育の場を活用し運動の重要性について指導を行う。</li> </ul>

# 1 健康づくりの推進 (3) 休養・こころ

A: 目標達成(到達係数100以上) B: 目標に対し到達係数50以上  
C: 目標に対し到達係数50未満 D: 後退

施策の方向	1 こころの健康に関する知識の普及		3 うつ対策				
	2 相談・受診場所の周知		策定時(%) 平成27年度	最終目標 (%)	現状(%) 令和5年度	目標達成度	第3次計画指標
健康指標と目標値	健康指標						
	1	気持ちよく目覚めている	69.1	80.0	68.9	D	継続
	2	ストレスが溜まっていると感じている	50.8	45.0	47.2	B	表現の変更
	3	ストレスの発散方法を知っている	58.0	65.0	72.5	A	継続
	4	悩みを抱えたとき、相談する場所を知らない	61.8	30.0	60.0	C	表現の変更
	5	悩み等の相談・受診場所を受診しにくいと感じている	76.1	30.0	74.0	C	表現の変更
指標の結果と分析	指標の結果と分析 (平成27年度と令和5年度の比較)					分析から見えてきた重点課題	
	<p>○「ストレスの発散方法を知っている」と回答した人が72.5%、「ストレスが溜まっていると感じている」と回答した人が47.2%だった。</p> <p>○アンケートの結果から、「あなたは、行き詰まった時や悩みを抱えている時、あるいは「こころの病気かな」と感じた時に相談又は受診できる医療機関や公的な機関は利用しやすいと思いますか。」の質問に「相談、受診しにくい」と回答した人は74.0%だった。</p>					<p>ストレスの発散方法を知っている人の割合が増えた一方で、悩みを抱えた時の相談場所や医療機関などの公的機関を知らない人の割合は横ばいであった。</p> <p>悩みを抱えた時の相談場所について知らない人が多いため、相談場所の周知、相談体制の強化が必要である。また、各世代が自分の悩みや心配事についてSOSが出せる環境づくりも必要である。</p>	
事業の振り返り	実施事業		町の取組の振り返り			第3期計画への取組方針	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面、電話、訪問による相談事業</li> <li>・健康教室(出前講座含む)</li> <li>・妊産婦訪問事業</li> <li>・新生児、乳児訪問(こんにちは赤ちゃん訪問)</li> <li>・ふれあい体験学習事業</li> <li>・ピアエデュケーション事業</li> <li>・ゲートキーパー養成講座</li> </ul>		<p>電話だけではなく、訪問による相談を実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響によりゲートキーパー養成講座の開催を見合わせたことで、新規のゲートキーパー資格者を養成することができなかった。</p> <p>母子手帳交付時から出産後の新生児や乳児の訪問(こんにちは赤ちゃん訪問)を通し、母親の子育てに寄り添い支援を行った。また、中学生を対象にした乳幼児ふれあい体験学習事業や西和賀高校生を対象としたピアエデュケーション事業を実施し、命を大切にする気持ちを育てる取り組みを行った。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○対面、電話、訪問による相談を行う。</li> <li>○相談場所の周知をする。</li> <li>○ゲートキーパー養成講座を開催し資格者の養成を行う。</li> <li>○命を大切にする気持ちを育てる取り組みを行う。</li> </ul>	

## 2 生活習慣病の予防 (1) がん

A: 目標達成(到達係数100以上) B: 目標に対し到達係数50以上  
C: 目標に対し到達係数50未満 D: 後退

施策の方向	1 がんの早期発見								
	健康指標		策定時(%) 平成27年度	最終目標 (%)	H27年度をR5年度と同様の数式にて換算	現状(%) 令和5年度	目標達成度	第3次計画指標	
健康指標と目標値	1 がん検診の受診率 ※現状値はいずれも令和4年度実績 ※がん検診について、現状値は地域保健報告に基づく。対象年齢区分は40歳～69歳。胃がん検診50歳～69歳、子宮頸がん検診20歳～69歳。	胃がん検診	21.8	25.0	15.4	16.7	-	継続	
		大腸がん検診	55.7	60.0	30.9	27.7	-	継続	
		子宮頸がん検診	32.2	40.0	27.8	25.1	-	継続	
		乳がん検診	45.4	50.0	35.8	37.0	-	継続	
		結核検診	58.9	65.0	-	32.8	D	見直し	
		肺がん検診	56.9	70.0	22.6	18.3	-	継続	
	2 精密検査受診率 ※現状値はいずれも令和4年度実績	胃がん検診	73.3	90.0	-	69.2	D	継続	
		大腸がん検診	63.6	90.0	-	63.2	D	継続	
		子宮頸がん検診	80.0	100.0	-	77.8	D	継続	
		乳がん検診	71.4	90.0	-	60.0	D	継続	
		結核検診	78.0	95.0	-	68.8	D	見直し	
		肺がん検診	70.0	90.0	-	88.9	B	継続	
指標の結果と分析	指標の結果と分析 (平成27年度と令和5年度の比較)					分析から見えてきた重点課題			
	<p>○平成27年度のがん検診の受診率は、対象者の選定方法が町民1人ひとりの状況把握し算出していた。現在、全町民の状況把握が困難であり同様の算出が出来ない。現在の方法で算出すると上記の値となる。</p> <p>○過去2年間健(検)診を受けていない人(医療機関管理を除く)は、28.5%。検診を受けていない理由(医療機関管理を除く)として、「仕事が忙しい」32.7%、「自覚症状がない」23.8%で、健(検)診受診の必要性への理解不足が推測される。</p> <p>○がん検診精密検査受診率は、肺がん検診の精密検査受診率は改善しているが、その他のがん検診精密検査受診率が低下しており、精密検査受診の必要性への理解不足が推測される。</p>					<p>健(検)診受診の必要性への意識低下が考えられるため、健(検)診受診及び精密検査受診の必要性の理解向上への取組が課題である。</p>			
事業の振り返り	実施事業		町の取組の振り返り				第3期計画への取組方針		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種がん検診</li> <li>一日人間ドック</li> <li>健幸ポイント</li> </ul>		<p>ひかり放送(告知端末)、広報を活用した健診日程や受診方法の周知の実施、大腸、胃、乳がん検診について日曜日に実施するなど、受診しやすい体制づくりを行った。</p> <p>がん検診の過去3年間検診未受診者の追跡調査はできていないが、過去3年以内に受診したものの、当該年度検診申し込みをしていない人へ受検票を配布し受診を促した。</p> <p>さわうち病院で実施する一日人間ドックがん検診、公民館等で実施する集団検診において、精密検査未受診者を追跡し、未受診理由を聞き取り受診勧奨を実施した。</p>				<p>○ひかり放送(告知端末)や広報の活用、個人通知により受診勧奨を行う。</p> <p>○厄年検診など受診費用の軽減を行う。</p> <p>○町内企業や事業所に従事している方も受診できるよう周知を行う。</p> <p>○精密検査受診の必要性について、早い段階から周知を行い、未受診者へ電話等による受診勧奨を行う。</p>		

## 2 生活習慣病の予防 (2) 生活習慣病

A: 目標達成(到達係数100以上) B: 目標に対し到達係数50以上  
C: 目標に対し到達係数50未満 D: 後退

施策の方向	1 生活習慣病の予防						
	健康指標	策定時(%) 平成27年度	最終目標(%)	現状(%) 令和5年度	目標達成度	第3次計画指標	
健康指標と目標値	1 特定健康診査の受診率	44.6	60.0	49.6	C	継続	
	2 特定保健指導の終了率	16.4	60.0	17.0	C	継続	
	3 メタボリックシンドローム	該当者	20.1	15.0	21.4	D	継続
		予備群	12.0	9.0	8.0	A	継続
	※現状値はいずれも令和4年度実績						
指標の結果と分析	指標の結果と分析 (平成27年度と令和5年度の比較)					分析から見えてきた重点課題	
	<p>○特定健康診査受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響がみられたが平成27年度と比較すると増加した。しかし、最終目標の60%までは到達ができなかった。</p> <p>○特定保健指導の終了率は、平成27年度から横ばいで特定保健指導につながらない状況となっている。併せて、生活習慣病を引き起こす要因となるメタボリックシンドロームの該当者率も高い状況となっている。</p>					<p>特定健康診査受診率は平成27年度より5.0%上昇したが、特定保健指導終了率は横ばいとなった。メタボリックシンドロームの該当者率も高い状態であり、特定健康診査を受診しやすい環境と、特定保健指導の必要性の周知や指導方法を工夫する必要がある。</p>	
事業の振り返り	実施事業	町の取組の振り返り				第3期計画への取組方針	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定健康診査</li> <li>・ 特定保健指導</li> <li>・ 一日人間ドック</li> <li>・ 特定健康診査結果説明会</li> </ul>	<p>特定健康診査未受診者対策として、未受診者宛てに特定健康診査終了後、夏、秋の3回通知を発送し受診勧奨を行った。</p> <p>特定保健指導は、外部の専門機関と連携しながら実施した。また、保健師・栄養士による特定健康診査結果説明会を各地区で実施し、結果の振り返りと適切な食習慣・減塩について普及啓発を行った。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特定健康診査の受診者の増加を目指し、受診勧奨を行う。</li> <li>○ 特定保健指導と特定健康診査結果説明会を行い、生活習慣の改善を行う。</li> </ul>	

## 2 生活習慣病の予防 (3) 歯の健康

A: 目標達成(到達係数100以上) B: 目標に対し到達係数50以上  
C: 目標に対し到達係数50未満 D: 後退

施策の方向	1 口腔ケアや定期検査の必要性を啓発		3 生涯を通じた歯科保健指導				
	2 要治療者への受診勧奨		策定時(%) 平成27年度	最終目標(%)	現状(%) 令和5年度	目標達成度	第3次計画指標
健康指標と目標値	1 20本以上歯がある		77.8	80.0	66.6	D	継続
	2 なんでも噛んで食べることができる		80.4	85.0	86.1	A	継続
	3 毎日歯をみがく		82.2	90.0	96.4	A	継続
	4 むし歯のある子供	1歳6か月児	4.3	0.0	0.0	A	継続
		3歳児	15.8	7.0	10.5	B	継続
		小学1年生	35.7	25.0	16.0	A	継続
		中学1年生	65.8	20.0	40.6	B	継続
	5 むし歯の未処置歯がある	小学生	22.1	10.0	15.3	B	継続
		中学生	33.1	10.0	8.2	A	継続
	指標の結果と分析	指標の結果と分析 (平成27年度と令和5年度の比較)					分析から見えてきた重点課題
<p>○「歯が20本以上ある」と回答した人の割合が平成27年度と比較して11%ほど減少したが、「なんでも噛んで食べられる」「毎日歯をみがく」と回答した人の割合が増加した。日頃からセルフケアを心がける人が増加していると考えられる。</p> <p>○むし歯のある子どもの割合及びむし歯の未処置歯のある子どもの割合は、平成27年度と比較して改善した。</p>					生涯を通じた歯科保健指導と啓発により、日頃からのセルフケアについては改善されているが、かかりつけ歯科医での定期検診と未処置歯の処置について普及・啓発する必要がある。		
事業の振り返り	実施事業		町の取組の振り返り			第3期計画への取組方針	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児歯科健康診査</li> <li>・ 乳幼児健康診査でのフッ素塗布</li> <li>・ 国保歯科健康診査(65歳以上)</li> <li>・ 西和賀さわうち病院での一日人間ドックの歯科健康診査</li> <li>・ 後期高齢者歯科健康診査</li> <li>・ 妊婦歯科健康診査</li> </ul>		<p>一日人間ドックにおいて、歯科健診と健康教育の場で口腔ケアの必要性を指導した。</p> <p>国保歯科健診事業(65歳以上)を実施し、歯科医療機関での定期検診につながるよう取り組んだ。</p> <p>妊婦・乳幼児のむし歯予防として妊婦歯科健康診査と乳幼児歯科健康診査を実施した。</p> <p>幼児を対象としたフッ化物によるむし歯予防を実施した。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幅広い世代への歯科指導の実施をする。</li> <li>○ 要治療者への受診勧奨をする。</li> <li>○ 幼児を対象としたフッ化物洗口の実施をする。</li> </ul>	



## 2 生活習慣病の予防 (4) アルコール

A: 目標達成(到達係数100以上) B: 目標に対し到達係数50以上  
C: 目標に対し到達係数50未満 D: 後退

施策の方向	1 適量飲酒の理解		3 女性の飲酒状況の把握				
	2 飲酒量を減らそうとする人への支援		策定時(%)	最終目標	現状(%)	目標達成度	第3次計画指標
健康指標と目標値	健康指標		平成27年度	(%)	令和5年度		
	1	お酒を毎日飲む	25.8	20.0	28.6	D	継続
	2	多量飲酒する	14.3	10.0	9.5	A	継続
指標の結果と分析	指標の結果と分析 (平成27年度と令和5年度の比較)					分析から見えてきた重点課題	
	<p>○お酒を毎日飲む人は増加したが、多量飲酒する人はやや減少した。 ○多量飲酒すると回答した人のうち、ストレスが溜まっていると回答した人は74%と、ストレス発散をアルコールに頼る人が多い。</p>					<p>飲酒習慣の常態化がうかがわれる一方で、多量飲酒する人の割合は減少傾向にあるが、ストレス発散のための飲酒が多いことからストレス発散方法等の検討や周知が必要である。 アルコールによる健康への悪影響について、幼少期から周知や教育が重要である。</p>	
事業の振り返り	実施事業		町の取組の振り返り			第3期計画への取組方針	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病予防教室、一日人間ドック事後指導</li> <li>・各健康相談・健康教室・講座</li> <li>・特定健康診査・特定保健指導</li> <li>・各小中学校での取り組み(薬剤師等による講話)</li> </ul>		<p>特定健康診査結果説明会や一日人間ドック等での個別指導時に、飲酒による健康への影響や正しい知識の普及やリスク啓発を行った。</p> <p>年に1回、町内小・中学校に薬剤師が出向き「薬物乱用教室」を通してアルコールとたばこの害について教育する機会を設けて実施した。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○アルコールの正しい知識啓発をする。</li> <li>○アルコールに頼らないストレス発散方法の周知をする。</li> <li>○幼少期からのアルコールと健康についての周知と教育の実施をする。</li> </ul>	

## 2 生活習慣病の予防 (5) たばこ

A: 目標達成(到達係数100以上) B: 目標に対し到達係数50以上  
C: 目標に対し到達係数50未満 D: 後退

施策の方向	1 喫煙による健康への影響、COPDの啓発 2 禁煙しようとする人への支援					
	健康指標	策定時(%) 平成27年度	最終目標 (%)	現状(%) 令和5年度	目標達成度	第3次計画指標
健康指標と目標値	1 喫煙と健康に関する知識をもつ	97.3	100.0	95.9	D	継続
	2 禁煙した	45.8	60.0	21.6	D	表現の変更
	3 たばこを吸う時、周囲に配慮している	78.9	100.0	80.0	C	継続
指標の結果と分析	指標の結果と分析 (平成27年度と令和5年度の比較)				分析から見えてきた重点課題	
	<p>○「たばこがもたらす健康被害についての知識を持っている」と回答した人の割合が減少した。</p> <p>○アンケート結果から、たばこを吸う時周囲に配慮しない人が20%、法律の改正で「原則屋内禁煙」になったことを知っている人の割合は、54.6%であり、受動喫煙防止のための行動、知識が不足していると考える。</p>				<p>たばこによる健康被害と、望まない受動喫煙防止に対する知識不足がみられることから周知が必要である。</p> <p>たばこを吸わない人の割合を増やすために、禁煙しようとする人への支援が必要である。</p>	
事業の振り返り	実施事業	町の取組の振り返り			第3期計画への取組方針	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座（脳卒中予防、受動喫煙防止等）</li> <li>・ 一日人間ドック事後指導</li> <li>・ 国保禁煙治療費補助事業</li> <li>・ 公共施設の敷地内禁煙実施</li> </ul>	<p>特定健康診査結果説明会や一日人間ドック等での健康教育時に、たばこによる健康への影響や正しい知識の普及を行った。</p> <p>年に一回、町内小・中学校に薬剤師が出向き「薬物乱用教室」を通してアルコールとたばこの害について教育する機会を設けて実施した。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○たばこによる体への影響について周知及び啓発をする。</li> <li>○禁煙をしようとする人へ禁煙支援に向け、事業を普及する。</li> <li>○幼少期からのたばこと健康についての周知と教育の実施をする。</li> </ul>	

### 3 親子の健康づくり (1) 妊娠・出産

A: 目標達成(到達係数100以上) B: 目標に対し到達係数50以上  
C: 目標に対し到達係数50未満 D: 後退

施策の方向	1 安心して妊娠・出産できる環境づくり					
	健康指標	策定時(%) 平成27年度	最終目標(%)	現状(%) 令和5年度	目標達成度	第3次計画指標
健康指標と目標値	1 早期妊娠届出率(妊娠11週まで)	69.6	100.0	100.0	A	見直し
	2 妊産婦死亡率	0.0	0.0	0.0	A	見直し
	3 妊婦健康診査受診率	100.0	100.0	100.0	A	見直し
	4 新生児・乳児訪問(生後4か月まで)実施率	100.0	100.0	100.0	A	見直し
指標の結果と分析	指標の結果と分析 (平成27年度と令和5年度の比較)				分析から見えてきた重点課題	
	○「早期妊娠届出率」「妊婦健康診査受診率」「新生児・乳児訪問(生後4か月まで)実施率」は、それぞれ100%となり、その後定期的に行われている乳幼児健診や子育てサロン等の母子保健事業へつなぎ、乳幼児期を安心して子育てできるように支援している。				妊娠期から出産、子育て期において、切れ目のない支援を行っているが、様々な媒体を活用しながらより充実した情報を提供し、安心して妊娠と出産できる環境を提供する必要がある。	
事業の振り返り	実施事業	町の取組の振り返り			第3期計画への取組方針	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子健康手帳交付</li> <li>妊婦健診受診票交付</li> <li>妊婦相談</li> <li>新生児・乳児訪問</li> <li>「母子モ」アプリでの情報配信</li> <li>妊婦歯科健康診査</li> <li>出産・子育て応援給付金事業</li> </ul>	<p>母子手帳交付時、第7～9月に使用する受診券交付時、第10月以降の受診券交付時の3回に分けて妊婦相談をした。</p> <p>令和3年度から出産後、助産師と保健師による新生児訪問をし、母子の健康状態と育児相談をした。</p> <p>電子母子手帳アプリ「母子モ」を活用して、予防接種・健診・子育てサロンの情報発信を行った。</p> <p>出産・子育て応援給付金事業で、母子健康手帳交付時、妊婦健診受診券交付時(第7～9月)、新生児訪問の際にアンケートを実施し、妊婦や母子の状況把握をした。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○妊娠と出産の正しい知識の周知をする。</li> <li>○妊娠・出産・子育てに関する情報の提供をする。</li> <li>○新生児訪問をする。</li> </ul>	

### 3 親子の健康づくり (2) 子育て

A: 目標達成(到達係数100以上) B: 目標に対し到達係数50以上  
C: 目標に対し到達係数50未満 D: 後退

施策の方向	1 健やかな成長発達の支援						
	健康指標		策定時(%) 平成27年度	最終目標(%)	現状(%) 令和5年度	目標達成度	第3次計画指標
健康指標と目標値	1 健診の受診率	1歳6か月児健診	100.0	100.0	100.0	A	継続
		3歳児健診	100.0	100.0	100.0	A	継続
	2 子育てに関して相談できる人がいる		93.2	100.0	97.1	B	継続
指標の結果と分析	指標の結果と分析 (平成27年度と令和5年度の比較)					分析から見えてきた重点課題	
	<p>○1歳6か月児健診及び3歳児健診の受診率は100.0%だった。</p> <p>○子育てに関して相談をすることができない人が2.9%いることは、母親の育児不安や地域社会の人間関係の希薄化など子育てをめぐる問題につながる要因となる可能性がある。</p>					<p>子育てに関して相談をすることができない人がいることから、乳幼児健診時の母親同士がつながりやすい環境づくりをすることが必要である。</p> <p>また、オンライン相談できることの周知が不足していた。自宅での訪問に限らず、外出せずに気軽に自宅から相談できる窓口の充実をはかる必要がある。</p>	
事業の振り返り	実施事業		町の取組の振り返り			第3期計画への取組方針	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児訪問、乳幼児健診</li> <li>・保育所(園)何でも相談</li> <li>・発達相談、療育教室「たんぽぽの部屋」</li> <li>・「母子モ」アプリでの情報発信</li> <li>・中学生を対象としたふれあい体験学習</li> <li>・予防接種</li> </ul>		<p>乳幼児健診、予防接種を実施し、子どもの健康状態の確認を行った。新型コロナウイルス感染症対策から小児科医師等のミニ講話は中止した。</p> <p>令和3年度から出産後、助産師と保健師による新生児訪問を実施し、母子の健康状態と育児相談をした。</p> <p>電子母子手帳アプリ「母子モ」を活用して、予防接種・健診・子育てサロンの情報発信を行った。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児健診の実施をする。</li> <li>○子育てに関する情報の提供をする。</li> <li>○相談手段の周知や体制を充実させる。</li> </ul>	

### 3 親子の健康づくり (3) 子どものこころと体

A: 目標達成(到達係数100以上) B: 目標に対し到達係数50以上  
C: 目標に対し到達係数50未満 D: 後退

施策の方向	1 乳幼児期から望ましい生活習慣、食習慣の確立						
	2 思春期保健対策						
健康指標と目標値	健康指標		策定時(%) 平成27年度	最終目標(%)	現状(%) 令和5年度	目標達成度	第3次計画指標
	1 毎日朝食を食べている		93.8	100.0	92.7	D	継続
	2 朝食を家族と食べる		68.8	75.0	72.0	B	継続
	3 肥満度20%以上	小学校	10.9	10.0	21.9	D	継続
		中学校	12.9	10.0	17.5	D	継続
指標の結果と分析	指標の結果と分析 (平成27年度と令和5年度の比較)					分析から見えてきた重点課題	
	<p>○毎日朝食を食べている子どもの割合が少しずつ減少しているが、朝食を家族と食べる割合は増加した。</p> <p>○小・中学校ともに肥満度20%以上の割合が増加し、平成27年度と比較すると肥満体質の子どもが増加した。</p> <p>○子どものこころに関する指標がなく、評価ができなかった。</p>					<p>朝食を食べることによりエネルギー補給の他に肥満予防、規則正しい生活を送ることで学習に取り組めるなど利点を伝える必要がある。</p>	
事業の振り返り	実施事業		町の取組の振り返り			第3期計画への取組方針	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診事業</li> <li>・幼児歯科健診事業</li> <li>・子育てサロン</li> <li>・親子クッキング</li> <li>・なんでも相談(保育所(園)巡回相談)</li> <li>・乳幼児ふれあい体験学習の実施</li> <li>・ピアエデュケーション事業の実施</li> <li>・孫世代のための認知症講座への参加</li> <li>・子どもの健康検討委員会への参加</li> </ul>		<p>健診事後指導や事業の際に、保護者の生活習慣が子どもに影響することを伝え、子どもの健康全般について指導を実施した。</p> <p>町内の保育所(園)へ巡回相談を行い、保育園児やその家族の状況を把握することで、保育士と連携し、必要に応じた支援を行うことが出来た。</p> <p>子どもの時期から命に寄り添い命を大切にする事業を行い、それに関係する機関(学校、保育所、保育園等)と連携をとることが出来た。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族と朝食を食べることの大切さを普及する。</li> <li>○関係機関と協力し、規則正しい生活習慣の普及活動の実施をする。</li> <li>○子どものこころから悩みを相談できる場所や相談できる人がいることを周知し、一人で悩まないように支援していく。</li> <li>○子ども達が、自分や他人の生命を大切にする気持ちをはぐくんでいく取組を継続していく。</li> </ul>	